

定置網で漁獲されたマアジの調査

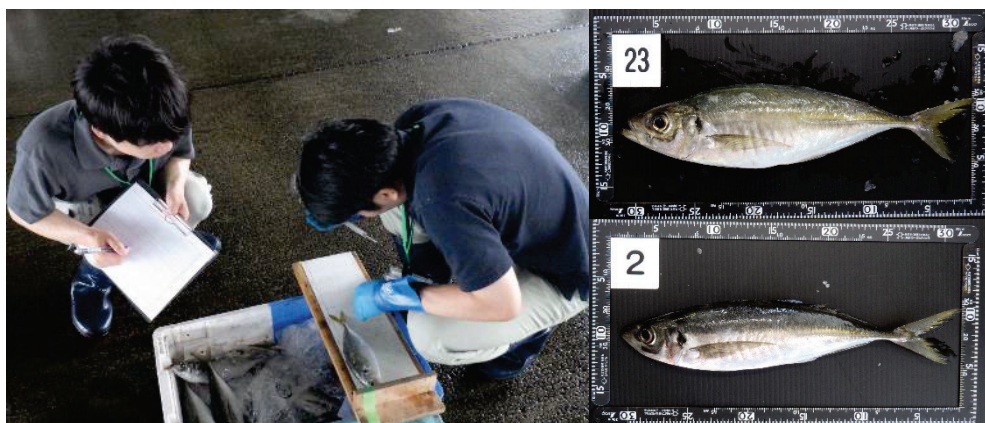
京都府の基幹漁業である定置網漁業において、マアジは重要対象種となっています。1年を通じて漁獲されるマアジには、キアジ型^{※1}とクロアジ型^{※2}の2型が存在し、漁場・季節ごとに体型等が異なるとされています。一般にはキアジ型の市場価値が高いとされていますが、両型は実は同種であり、明確には区別されていません。

そこで、両型の体型の違いに着目して府内漁場での両型の出現状況を明らかにし、有利な販売につなげることを目的として、府内の漁獲物が集積される舞鶴市場において漁場ごとにマアジの体長・体高・体幅を毎月測定しています。

今後も調査を続け、府内で漁獲されるマアジの漁場ごとの出現状況を明らかにし、その回遊パターンを解明することでブランド価値の創出につなげたいと考えています。

※1 キアジ型:沿岸部を中心に生息し、体高が高い個体

※2 クロアジ型:沖合を回遊し、体高が低い個体



(左):舞鶴市場での調査 (右):体型の違い(上がキアジ型、下がクロアジ型)